

会 議 録

会議の名称	平成 29 年度第 1 回茨木市総合教育会議
開催日時	平成 30 年 1 月 30 日 (火) (午前 午後) 3 時 00 分 開会 (午前 午後) 4 時 00 分 閉会
開催場所	市役所本館 6 階 第一会議室
議 長	福岡 洋一 (茨木市長)
出席者	福岡 洋一 (茨木市長) 岡田 祐一 (教育長)、京兼 幸子 (教育長職務代理者)、 片山 正敏 (教育委員)、篠永 安秀 (教育委員)、 武内 由紀子 (教育委員) 【 6 名 】
欠席者	なし
事務局職員	大塚副市長、河井副市長、秋元企画財政部長、佐藤こども育成部長、 岡こども育成部理事、乾教育総務部長、小川学校教育部長、 小西政策企画課長、玉谷教育総務部次長、小塩学務課長、西村学務課参 事、森本政策企画課長代理、小山教育政策課係長 【 13 名 】
開催形態	公開
議題 (案件)	(1) 開 会 (2) 市長あいさつ (3) 報告案件 茨木市教育大綱の体系に沿った第 5 次茨木市総合計画における施 策等評価結果について (4) 協議案件 中学校給食について (5) 閉 会
配布資料	(1) 茨木市教育大綱の体系に沿った第 5 次茨木市総合計画における施 策等評価結果 (2) 茨木市における中学校給食のあり方について (3) 茨木市教育大綱
傍聴人	3 名

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>1 開会 ただ今より、「平成 29 年度第 1 回茨木市総合教育会議」を開催する。</p>
福岡市長	<p>2 市長あいさつ この総合教育会議を通じて、活発に意見交換を行い、教育委員会と市長部局との連携をより円滑に、より充実した形で推進していければと考えている。</p>
福岡市長	<p>3 茨木市教育大綱の体系に沿った第 5 次茨木市総合計画における施策等評価結果について (報告案件) 茨木市教育大綱の体系に沿った第 5 次茨木市総合計画における施策等評価結果について、事務局から報告を求める。</p>
事務局	<p>【茨木市教育大綱の体系に沿った第 5 次茨木市総合計画における施策等評価結果について報告】</p>
福岡市長	<p>何か、ご質問、ご意見等はございませんか。 ご意見等がなければ、次の協議案件に進めさせていただく。</p>
福岡市長	<p>4 中学校給食について (協議案件) 次に、協議案件の「中学校給食」について、事務局から説明を求める。</p>
事務局	<p>【中学校給食のあり方について説明】</p>
福岡市長	<p>事務局より教育委員会としての中学校給食のあり方について説明があった。教育委員会として、一定の考え方を整理いただいたが、各委員のみなさま、何か、補足等があれば、ご発言をお願いします。</p>
篠永委員	<p>中学校給食あり方懇談会を経て、一定の方向性、結論に至ったわけだが、茨木市教育委員会としては、学校給食法改正で食の指導を実施することになって、現状の食の見直しからスタートした茨木の食育を見直す時期に来たというスタンスでいる。 給食の全員喫食によって、全てが解決するわけではないが、食材の産地やマナーなどをみんなで考える時間を持てる。家庭科の授業ともリンクし、各家庭での食事にフィードバックしてほしいと願っている。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
片山委員	<p>昔と今では環境が変わっており、家族皆、外で働いていることが多く、できるだけ食に対する負担を軽くといった傾向にある。</p> <p>子どもたちの様子を見ると、メタボの子どもがいるなど、栄養バランスが心配な状況となっている。もともと食は、子どもを育成していく上で、保護者の大きな役割であったが、社会の変化の中で、知識やマナーも含めた正しい食事が親から子に引き継がれることが期待できなくなっている。</p> <p>小学校では、家庭科の中で栄養に関する知識を得て、簡単な料理の実践をしているが、知識だけでなく、子どもたちが大人になって、自ら正しい食事を選択して、自分の健康を守ることができるように、考え方を定着させる必要がある。</p> <p>中学生になれば、自らの知識を使って、実践することができる。現在のように弁当を食べるだけでは、外部から教えてもらう機会がないので、給食で、将来、自分が料理をする際の食材選びの知識を、皆と一緒に食べながら勉強できたらと思う。</p>
武内委員	<p>食べるということの意味が、ただ「空腹を満たす」のではなく、もう少し前向きな「健康維持や体力向上のため」であるということに目を向けさせるには、中学生になれば自分で実践する力がついてくるので、学校で、皆で給食と一緒に食べることによって、栄養の摂り方や作り方を考え、身に付けられるようになってほしい。</p> <p>施設面や予算を考えると、難しい面もあるが、本来の給食の狙いを大切にして、子どもにどんな力を身に付けさせられるかを見通した形で実施できればと思う。</p>
京兼教育長 職務代理者	<p>学校給食法の改正によって、学校給食を活用した食に関する指導の実施が目的に加わり、児童・生徒は能動的な役割を担うことが期待されている。中学生ともなれば自分で作る力が備わってくるので、給食で食べたものを、年に数回であったとしても、家族のために作るなどすることが、大人になったら大きな力になると思う。</p> <p>現在は共働きなどが増え、出来合いの物を買って食べるが多くなっているため、食事を作る力をつけるのが大事である。能動的な役割を中学生が担うという観点からは、レシピがある学校給食は望ましい。</p> <p>多くの保護者が想定する学校給食の完全実施は、小学校給食のレベルである。莫大なランニングコストと初期費用の問題をどのように解決していくかは難しいが、健康的な食生活の大切さを学ぶ機会を与えてあげたい。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
岡田教育長	<p>懇談会やアンケートでは、子どもは今の選択制の弁当方式がいいという意見が多いが、保護者は朝の負担感から全員喫食の給食の方が良いという意見が多く、有識者も全員喫食が望ましいという意見であった。それを集約して、教育委員会で議論をし、最終的には全員喫食の給食が望ましいという考え方に至った。ただ、全員喫食を進めるなら、多くの課題を解決していく必要があり、また、小学校給食の延長ではなく、茨木市としての食育を意識した付加価値を考慮していく必要がある。</p>
福岡市長	<p>本市で中学校給食が可能か不可能か、また、その方式について別途検討する必要があると理解している。</p> <p>食育の充実ということであったが、中学校給食を全員喫食にすることによる食育とは何か。全国的に普及しているので、他市町村の例を参考に研究してもらいたい。</p>
武内委員	<p>子どもたちとの懇談の中で、弁当や給食を選択できる現在の方式がよいが、全員喫食でも、小学校の給食の形式なら、やってほしいという意見があった。小学校だけでなく、中学校でも給食ができたらと思う。</p>
篠永委員	<p>少し意見が異なるが、好きなものを選ぶということになると、好きなものしか食べない。食育は全員喫食がなされてから始まるのではなく、いろいろなものを食べないといけない必要性や、残すことはダメという問いかけであるとか、そういうところから始まっていると思う。中学生にもなれば、生活習慣病を予防するため、栄養素などの健康の知識を深めることが重要であり、教師も多忙の中ではあるが、生徒に食育の大切さを再認識させる必要がある。その辺は強調していきたい。</p>
片山委員	<p>昨日、太田認定こども園の給食の様子を見学にいったが、今の子どもは苦手と思っていた筑前煮やわかめスープを、4歳の子どもが完食していた。入園した頃は、残した子どもが多かったが、昆布や鰹の出汁を使った本当の味を知って変わってきたようで、礼儀正しく、こぼさずに、きれいに食べていた。これが本当の食育の姿である。</p> <p>最近の中学生は大変忙しく、配膳に時間がかかるのを嫌って、家庭から持参する弁当を好む傾向にある。また、先生の負担、労働時間の問題が社会問題になっており、その辺の体制整備や授業時間など、無理なくできる方策を研究したい。</p>
武内委員	<p>デリバリーのランチは量が画一化されている問題がある。認定こども園</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
京 兼 教 育 長 職 務 代 理 者	<p>や小学校の給食でも、子どもに応じて、配膳の量を調整している。中学生ならなおさらである。</p> <p>栄養バランスを考える力を身に付ける意味でも、食育につながる給食が大事であると思っている。</p> <p>給食で一番問題なのは残すことだと考えている。自校調理方式だと、子どもたちは調理員に感謝しながら、出されたものは全て食べる。これが本当の食育である。</p> <p>デリバリー方式の中学校給食では、食べ残しの率が多いと聞いている。完全喫食の給食をするなら、時間がかかっても、食べ残しがないように考えて実施すべきである。</p>
岡 田 教 育 長	<p>今後、教育委員会として調査・研究を行っていきたいと考えている。</p>
福 岡 市 長	<p>この件については、予算もあるが、今後も連携協力しながら、引き続き検討していく。</p> <p>その他のテーマで話をさせてもらってよいか。まず、英語についてであるが、いろいろな方法がある中でどんな教育が正解なのか。引き続き、研究してもらいたいと思っている。</p> <p>また、英語だけではなくて、タブレットであるが、箕面市では小学生全員に1台渡していると聞いている。その効用にも目を向けてもらいたい。</p> <p>就学前の教育についても、議会では保育幼稚園の教育の質というものをよく問われるし、今取り組んでいる保・幼・小・中連携もある。小学校、中学校に目を奪われがちであるが、就学前に目を向けていただけたらと思う。</p> <p>特に親については、早めに親の教育、親と向き合うようにしなければならない。就学前の子どもがいる早い段階で親に手を差し伸べる。市長部局でも考えるので、教育委員会でもそういった目線を持ってもらえたらと考えている。</p> <p>これからの子どもたちの未来に向って、どんな人間になってもらったらいのかという話であるが、今までは、大学を出たら1つのキャリアを積んで終わっていくということがステレオタイプとして存在していた。これからは、1キャリアではすまない。公務員だってどうなるかわからない。人生100年というなかで、65歳からのキャリアを考える必要性がある。1キャリアでなくなると、失敗が増える機会が増える。そういう意味では、挑戦する力、それを踏まえた教育に目を向けてもらえれば。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
岡田教育長	<p>グローイングアッププランのテーマの一つは、課題を乗り越えていくということである。生涯学習、学び続けるということと、失敗から学び、どう乗り越えられるかといったことがこれから必要であると考えているので、そういう部分をしっかりとやっていきたい。</p> <p>タブレットは、現在、4人から5人の班に1台配備しており、1つの課題に対して、班でディスカッションを行っている。課題を見つけるといった授業のあり方というものも今後進めていけたらと考えている。</p>
福岡市長	<p>いい大学に行かなかったら「終わり」ということにならないようにしていただけたらと考えている。いくらでもリカバリーは効く。高校をどこにいくかということは重要ではない。もう少し、考え方の幅を持ってもらいたい。</p>
武内委員	<p>英語について、昨日、太田認定こども園でネイティブの外国人から3～4歳の子どもが英語を学ぶ状況を見学させてもらった。頭や肩やひざを英語でどう言うのかといったことを、日本語を一切使わず教えていた。この取組は年に1回とのことであるが、もったいない。頭が柔らかい間に、体に入っていく体験を行うこのような取組がせめて月一回くらいあれば。小学校・中学校でもあるらしいが、もっと小さいときに自然に身につかせることも重要。</p>
京兼教育長 職務代理者	<p>4歳と5歳とでも英語の受け止め方が違う。5歳は耳から体に入る。これが年に1回というのは本当にもったいない。鉄は熱いうちにではないが、「英語シャワーデイ」を幼稚園からできたらよいのと思う。</p>
篠永委員	<p>流暢な英語を話す人ばかりがネイティブのスピーカーというわけでないし、英語を話すのはアフリカやアジアなど北欧だけではないので、日本人の英語教師でも良い。</p> <p>タブレットは良い英語教材の機械として活用できる。漢字ドリルや計算ドリルとしても使えるし、採点も簡単である。毎月や毎週、ネイティブを呼ぶというのではなく、タブレットで補完できる。できるだけ、若いうちにとというのは大賛成であるし、アプローチは多角的にすることが現実的である。</p>
福岡市長	<p>4 閉会</p> <p>他に意見がなければ、これをもって、第1回総合教育会議を終了する。</p>